

様式1 平成30年度 清瀬市立清瀬中学校 学校評価計画

学校の教育目標 <small>人間尊重を基本理念に国際的視野にたち平和を愛する社会人の形成をめざして、正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒を育てる。健康やかな身体と豊かな情操をもった生徒を育てる。高い知性とたくましい創造力をもった生徒を育てる。</small>	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動 本校の教育目標に基づき、中学校教育を通じて中学校卒業段階における社会人基礎力の育成を目指すという視点から、育成を目指す資質・能力を「前に踏み出す力」、「チームで働く力」、「考え抜く力」、「社会人基礎力」、経済産業省)とし、あらゆる教育活動を通じて育成を図る。 また、インクルーシブ教育の推進を本校の特色ある教育をし、各教科の授業や学校行事、給食、部活動などにおける、特別支援学級と通常学級の生徒との交流及び共同学習を中心的な内容とする。そのために通常学級と特別支援学級の合同学年会を行うとともに、体育行事及び文化行事の各委員会において交流及び共同学習を企画し運営する。
目指す学校像(ビジョン) 【目指す学校像】 ○生徒にとって楽しく行きがいのある学校 ○保護者にとって親しみがあり、地域に根ざした学校 ○教職員にとって自己研鑽に励み、協力して進める学校 【目指す児童・生徒像】 ○正しい判断力と粘りづよい実践力をもった生徒 ○健康やかな身体と豊かな情操をもった生徒 ○高い知性とたくましい創造力をもった生徒 【目指す教師像】 ○常に生徒のことを第一に考える教師 ○生徒のためという同一の視点に立ち協力し、体罰を許さぬ教師 ○自己研鑽に励み授業改善に取り組み教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題
 インクルーシブ教育の推進に重点を置いて学校の運営を行っている。特別支援学級と通常学級との交流・共同学習については、インクルーシブ教育推進委員会や特別支援教育コーディネーターが中心となって推進している。当初は集団になかなか馴染めなかった生徒も、取り組みを進めるうちに交流するようになってきている。今後は、インクルーシブ教育についての教員の理解を深め、より一層連携を密にすることが課題である。

柱	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標(評価基準)	成果指標(評価基準)
確かな学力の向上	・生徒一人一人に分かる喜びを味わわせながら学力の向上を図る。	・生徒に基礎的・基本的な内容を確実に身に付けさせるとともに知識・技能を活用させ、思考力・判断力・表現力等を育成する。	・各教科等で生徒の自己有用感の育成に係る指導場面を意図的に設定し、生徒の主体的で対話的な学習活動を促し、学びを深める。 ・清瀬市学力観に基づき、論理的な思考力、基礎的・基本的な力、社会と関わる力、及びそれらを相互に関連付けた力を育成する。	4 具体的方策に係る指導の実施率90%以上	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上
				3 具体的方策に係る指導の実施率80%以上90%未満	3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満
				2 具体的方策に係る指導の実施率70%以上80%未満	2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満
				1 具体的方策に係る指導の実施率70%未満	1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
豊かな心の育成	・人権尊重の理念を正しく理解させ、自他の生命を尊重する心を育てる。	・体験的な学習活動を通して、自ら学び考える力や自己有用感を養わせるとともに、協力する態度、思いやりの心を育てる。	・第1学年で介護体験講話、救急救命講習、第2学年で国立ハンセン病資料館見学、第3学年で赤ちゃんのチカラPJを「命と人権教育」として実施する。 ・体験学習のねらいを「前に踏み出す力」「チームで働く力」「考え抜く力」の育成に置き、生徒の主体性を育てる。	4 「命と人権」に係る体験的な学習活動を年間4回以上実施	4 保護者へのグループ・インタビューで、「極めて良好」(申し分なく達成)と評価
				3 「命と人権」に係る体験的な学習活動を年間3回以上実施	3 保護者へのグループ・インタビューで、「良好」(概ね達成した)と評価
				2 「命と人権」に係る体験的な学習活動を年間2回以上実施	2 保護者へのグループ・インタビューで、「もう一歩」(やや下回った)と評価
				1 「命と人権」に係る体験的な学習活動を年間1回以上実施	1 保護者へのグループ・インタビューで、「奮起を期待」(大きく下回った)と評価
健康やかな体の育成	・基本的な生活習慣、運動習慣を身に付けさせ、健康で活力あふれた身体の育成する。	・オリンピックパラリンピック教育等を通して自らの心身の健康に対する意識の向上を図る。食育等の取組を通し、自ら学び考える力を養わせる。	・外部講師や外部指導員による講演や実技指導の機会を設ける。 ・セーフティ教室や薬物乱用防止教室を外部講師の招へいや生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4 体力向上に係る講演会や実技指導を年間4回以上実施	4 生徒の自己評価で、満足度90%以上
				3 体力向上に係る講演会や実技指導を年間3回以上実施	3 生徒の自己評価で、満足度80%以上90%未満
				2 体力向上に係る講演会や実技指導を年間2回以上実施	2 生徒の自己評価で、満足度70%以上80%未満
				1 体力向上に係る講演会や実技指導を年間1回以上実施	1 生徒の自己評価で、満足度70%未満
本校の特色①	・インクルーシブ教育を推進する。	・専門家や外部機関との連携を深め、指導や支援を得ながら指導の工夫改善に取り組む。	・外部機関との連携を深め、生徒や保護者を公的な支援から孤立しないようにする。 インクルーシブ教育の一環として、各教科及び行事、部活動等、様々な場面を利用して交流及び共同学習を行う。	4 専門家や外部機関との連携した取組を全学年で実施	4 生徒を取り巻く環境が改善した割合90%以上
				3 専門家や外部機関との連携した取組を2つの学年で実施	3 生徒を取り巻く環境が改善した割合80%以上90%未満
				2 専門家や外部機関との連携した取組を1つの学年で実施	2 生徒を取り巻く環境が改善した割合70%以上80%未満
				1 専門家や外部機関との連携した取組を実施せず	1 生徒を取り巻く環境が改善した割合70%未満
本校の特色②	・保護者や地域に開かれた学校を創造する。	・家庭や地域、関係諸機関と連携し、体験的な学習を通じた命の教育の充実を図る。	・学校行事や体験学習における保護者との協働を推進する。 ・PTAが参画した行事を企画実施するとともに、学校支援地域本部創設の気運を高める。	4 保護者や地域と協働した活動を年間4回以上実施	4 保護者の満足度90%以上
				3 保護者や地域と協働した活動を年間3回以上実施	3 保護者の満足度80%以上90%未満
				2 保護者や地域と協働した活動を年間2回以上実施	2 保護者の満足度70%以上80%未満
				1 保護者や地域と協働した活動を年間1回以上実施	1 保護者の満足度70%未満
				4 保護者へのグループ・インタビューで、「極めて良好」(申し分なく達成)と評価	
				3 保護者や地域が参画した行事を年間3回以上実施	3 保護者へのグループ・インタビューで、「良好」(概ね達成した)と評価
				2 保護者や地域が参画した行事を年間2回以上実施	2 保護者へのグループ・インタビューで、「もう一歩」(やや下回った)と評価
				1 保護者や地域が参画した行事を実施せず	1 保護者へのグループ・インタビューで、「奮起を期待」(大きく下回った)と評価